

半盲患者に対して運転 支援を行った1症例



桔梗ヶ原病院
園原和樹

2022年6月25日

第59回日本リハビリテーション医学会学術集会

症例①

I. 56歳, 男性。

II. 既往歴
高血圧

III. 現病歴

もともと自宅にて妻と2人暮らし、仕事あり(歯科技工士)、自動車運転を毎日行っていた。

202X.6/17にめまい, 6/18に目の見えにくさが出現し、多発性脳梗塞, 右椎骨動脈解離の診断にてI病院に入院となった。全身状態安定したため、202X. 7/16にリハビリテーション目的で当院に転院した。

症例② 転院時所見

I. 転院時所見

- ①麻痺なし, 感覚鈍麻なし
- ②四肢失調—軽度
- ③記銘力低下あり
- ④注意障害あり
- ⑤半側空間無視なし

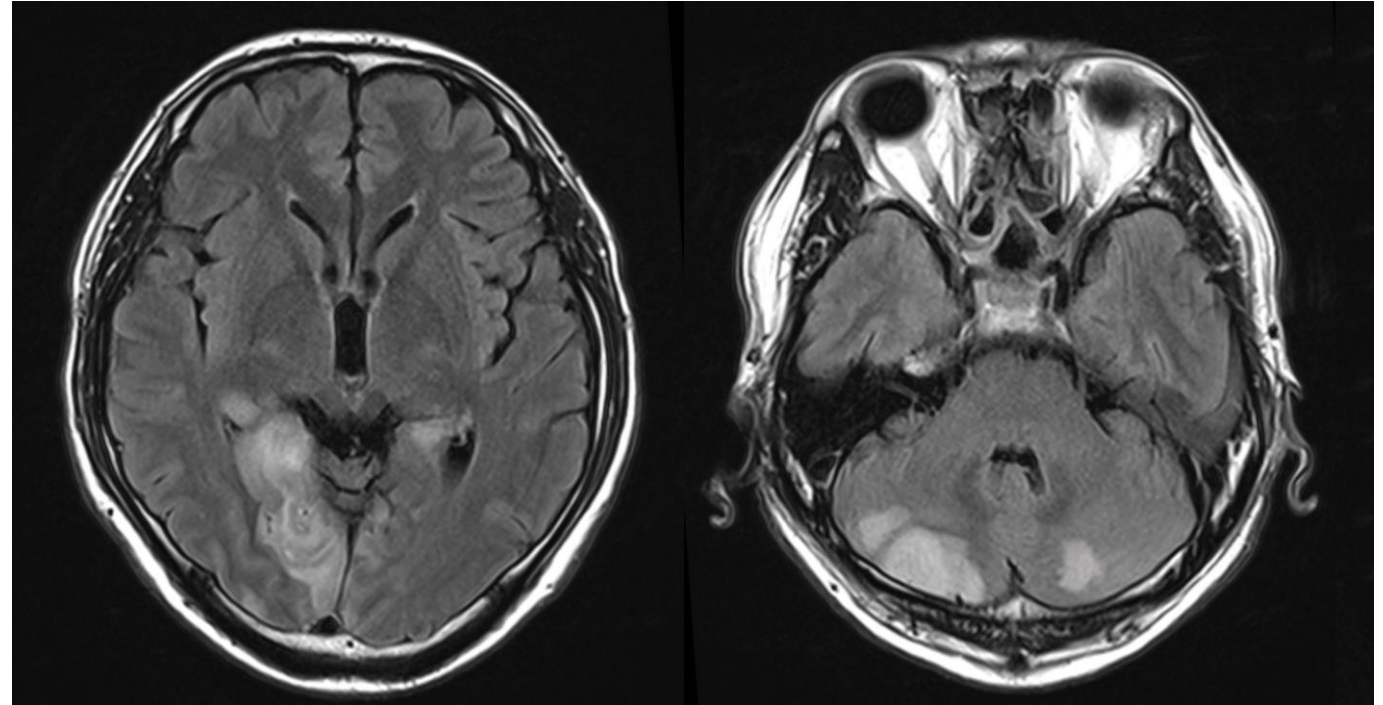
II. 検査所見

①頭部MRI検査

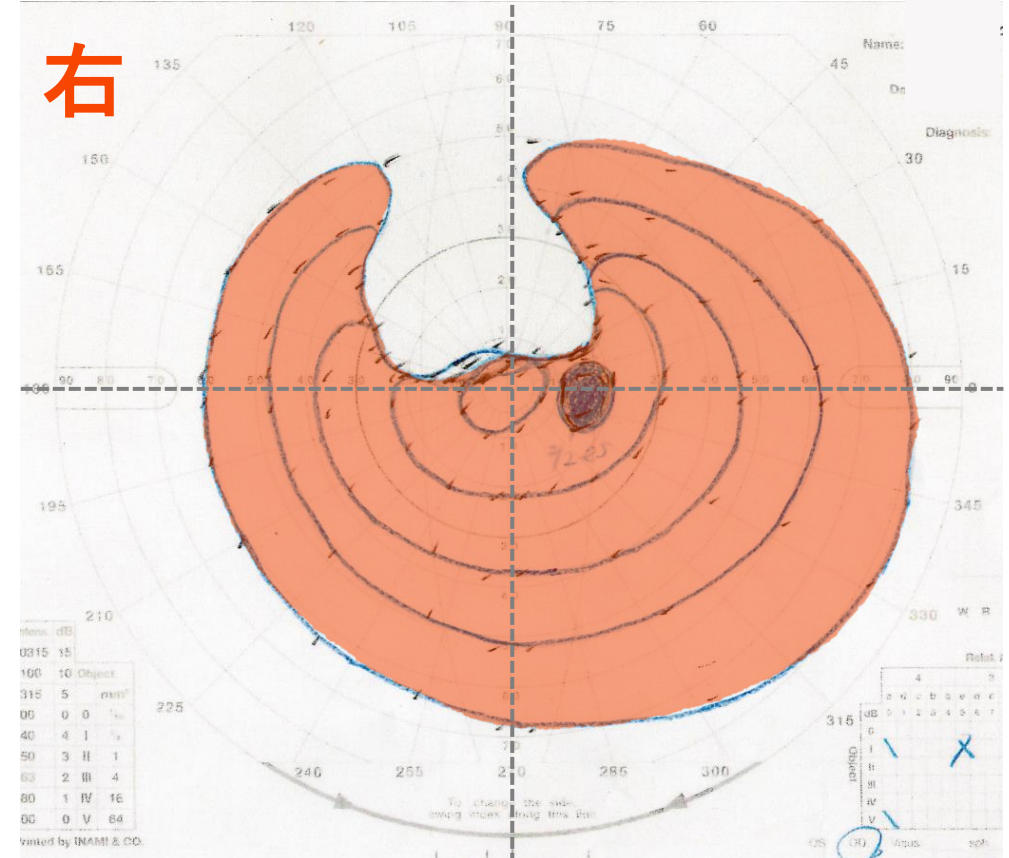
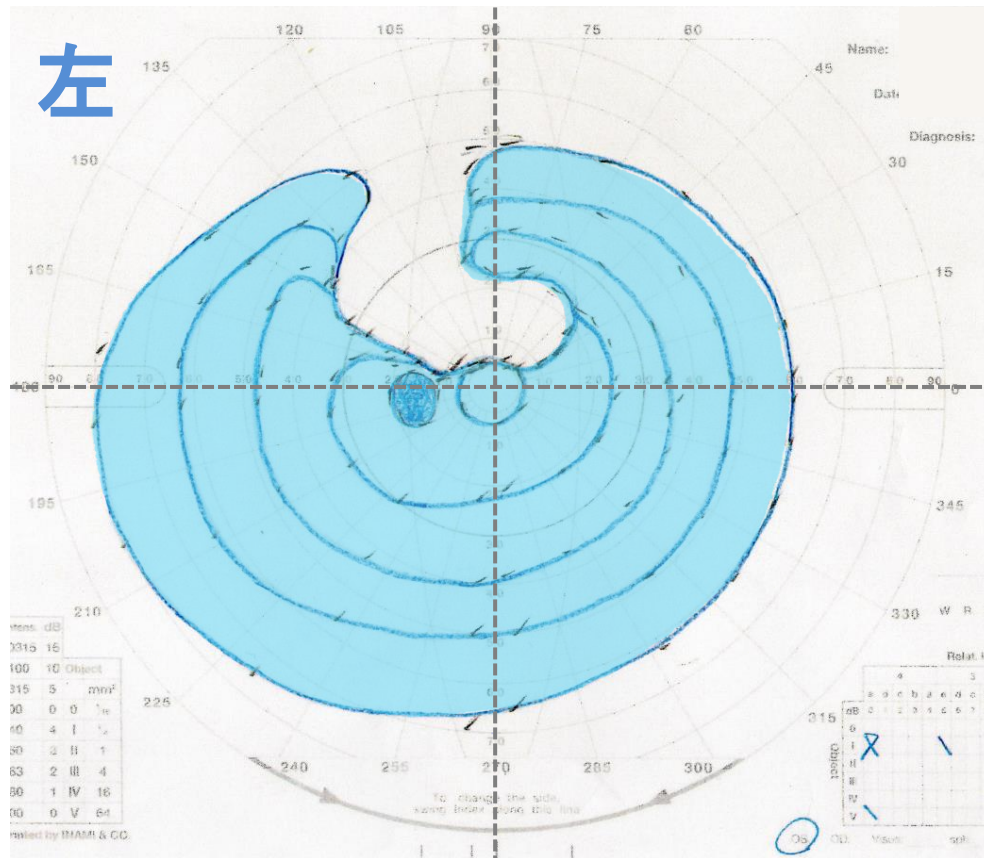
両側の後頭葉, 両側の小脳に脳梗塞が多発

②前医視野検査

左上1/4盲あり

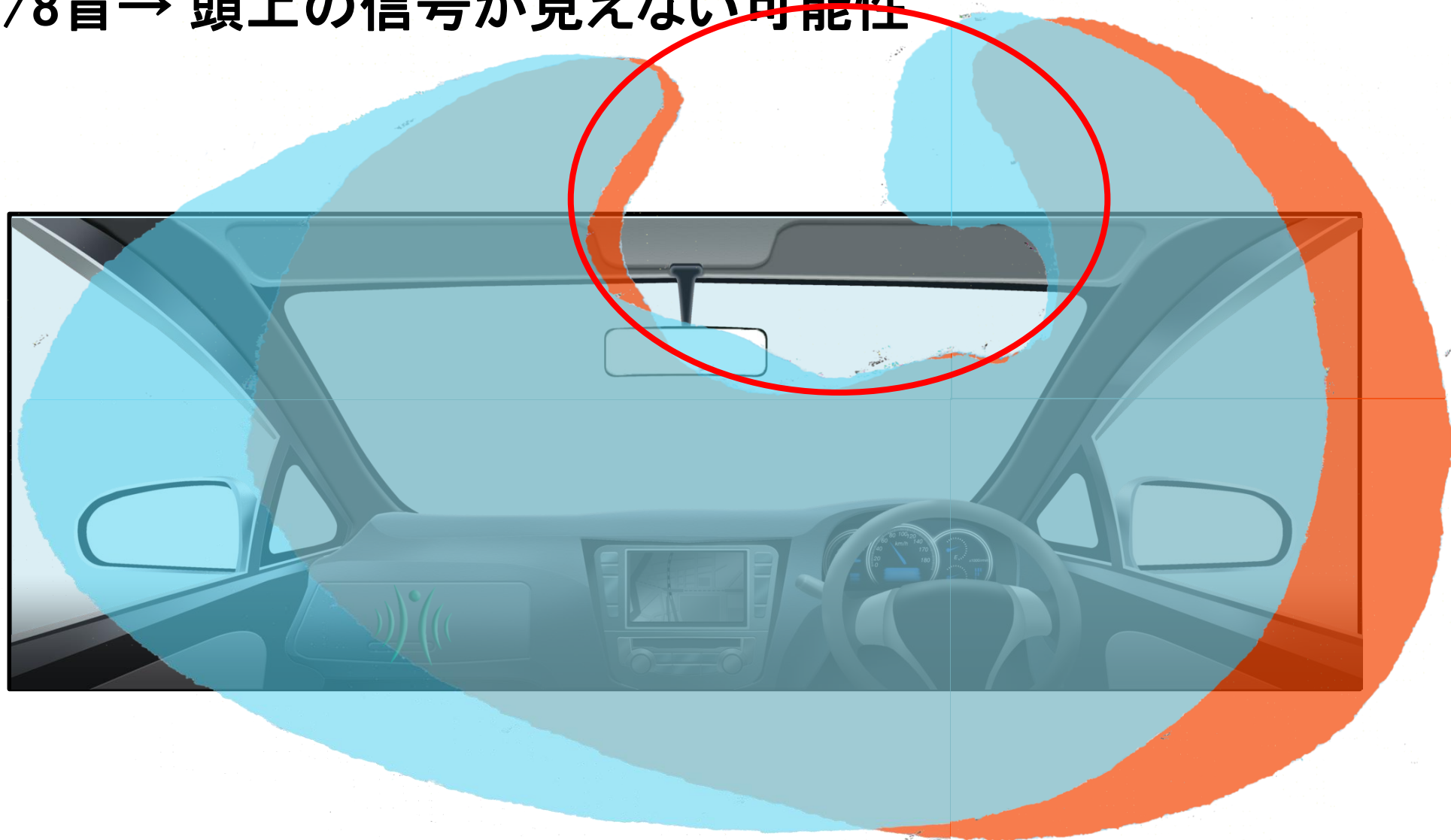


運転席から見たドライバー視野①入院時検討



運転席から見たドライバー視野②入院時検討

左上1/8盲→ 頭上の信号が見えない可能性

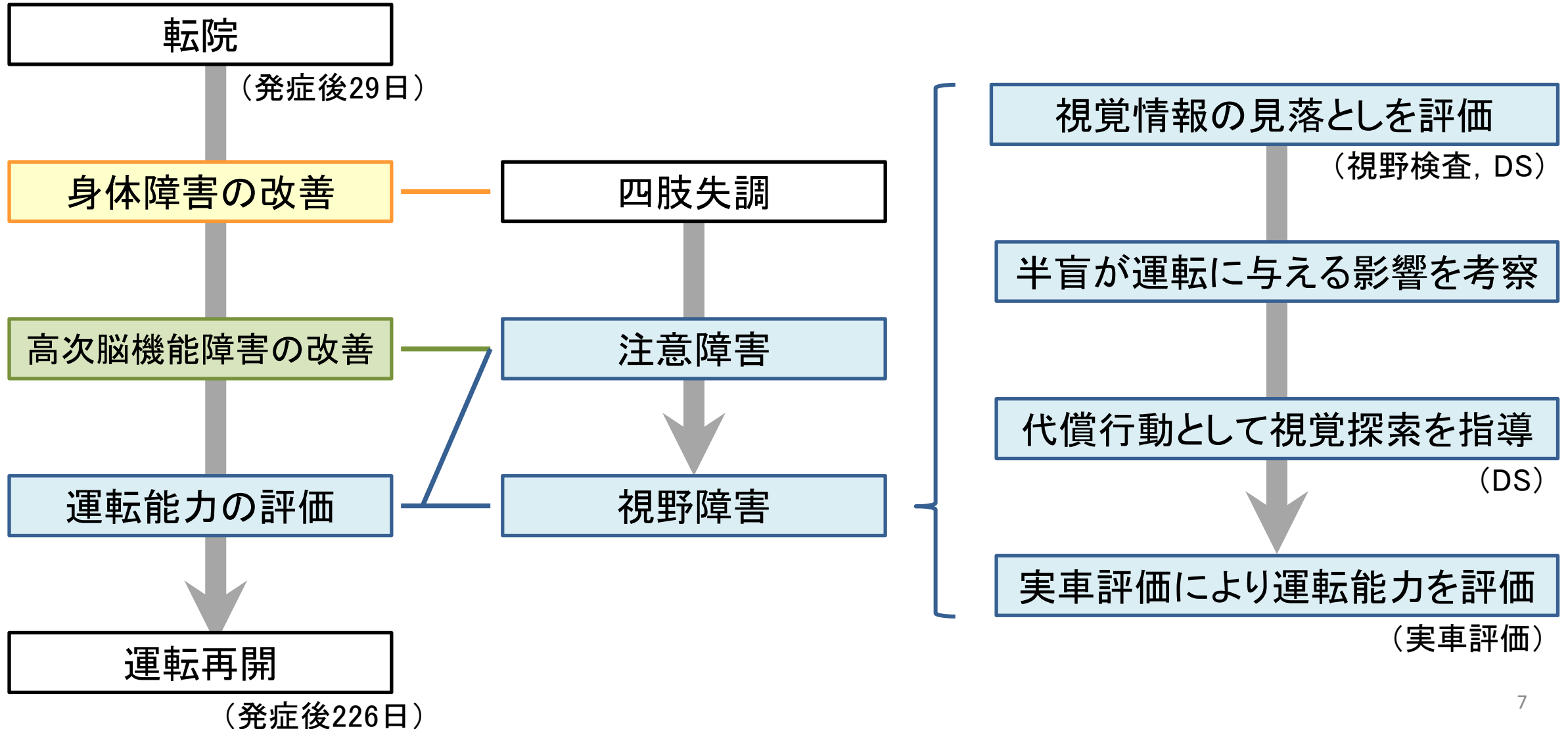


リハビリテーションの経過

【概要】

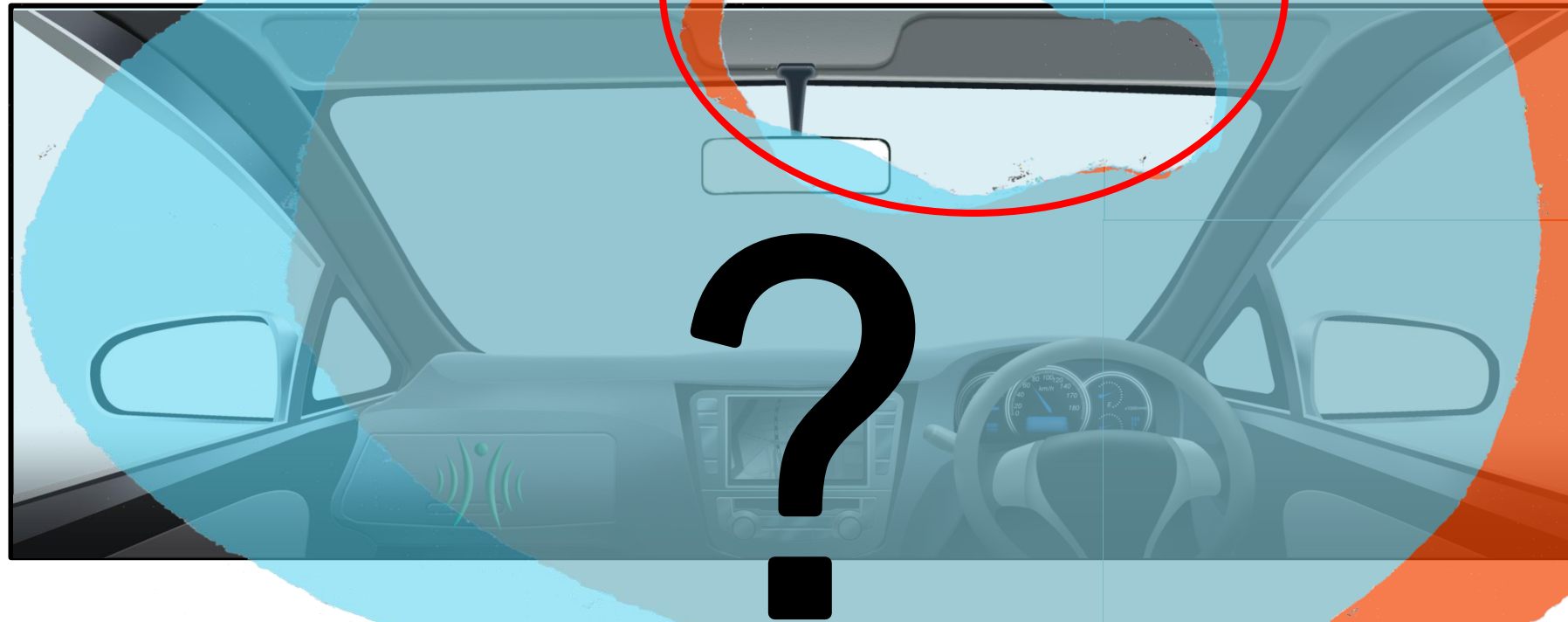
【改善すべき課題】

【視野障害に対する運転支援】



運転席から見たドライバー視野③1年後の聞き取りより

- ①運転中は見えにくいところがない(フロントガラスの外側にある)
- ②仕事中は見えにくい時がある。



運転席から見たドライバー視野②1年後の聞き取りより

- ①運転中は見えにくいところがない(フロントガラスの外側にある)
- ②仕事中は見えにくい時がある。



運転席の座面を上げることで、半盲部をフロントガラスの外側へ(代償行動)

要旨

- I. 脳梗塞後に左上1/8盲を来した患者に対して運転支援を行い、運転再開に至った症例を経験した。
- II. 本症例では①視野欠損の評価, ②視覚探索の指導, ③実車評価による運転能力の評価に重点を置き、運転支援を行った。
- III. 1年後のフォローアップにおいて、運転席の座面を上げて視野欠損部をフロントガラスの外側に配置することで、患者は代償行動を獲得していた。

※参考文献

The Impact of Visual Field Loss on Driving Skills: A Systematic Narrative Review (Patterson G:2019)

結語

I. 視野欠損者の運転支援に必要なとなる視点

(1) 評価

① 視野欠損の評価(視野検査, DS)

② 実車評価による運転能力の評価

(2) リハビリテーション

視覚探索の指導

II. 視野欠損(視野検査の結果)を可視化するツールの開発が望まれる。